

# 日本気象学会 2022 年度春季大会 協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり、以下の企業・団体からご協賛を頂きました（2022年4月19日現在；50 音順）。  
厚く御礼申し上げます。

[ANEOS株式会社](#)

[一般財団法人日本気象協会+](#)

[英弘精機株式会社](#)

[オフィス気象キャスター株式会社+](#)

[株式会社サニースポット](#)

[株式会社ニューテック](#)

[株式会社フランクリン・ジャパン](#)

[三報社印刷株式会社](#)

[全日本空輸株式会社](#)

[ダイヤモンドエアサービス株式会社](#)

[東京ダイレック株式会社](#)

[ビジュアルテクノロジー株式会社](#)

（五十音順）

+はリクルート対応を行う予定の企業・団体です。

# 日本気象学会 2022 年度春季大会

2022 年度春季大会は完全オンライン開催とします。授賞式、受賞記念講演とシンポジウムは関係者を絞って気象庁講堂からオンライン配信します。講演の発表者をはじめ、通常の参加者はオンラインで参加する形式であることをご承知おきください。参加方法は学会ホームページや大会ウェブサイト等でお知らせします。

## 会期：

2022 年 5 月 17 日（火）～5 月 21 日（土）

## シンポジウム、授賞式、受賞記念講演、総会：

日程 2022 年 5 月 19 日（木）

開催方式 気象庁講堂よりオンライン配信

## 真鍋淑郎先生ノーベル賞受賞記念特別公開シンポジウム：

日程 2022 年 5 月 21 日（土）午後

開催方式 オンライン配信（大会参加者以外も聴講可能）

申込方法 決まり次第、学会ホームページや大会ページ等でお知らせします。

## 研究発表：

口頭発表者を含む全ての講演者は講演資料を大会ウェブサイト上で公開する「オンラインポスター講演」を行います。参加者は全てのオンラインポスター講演資料を閲覧可能です。口頭発表は 17 日（火）・18 日（水）・20 日（金）に、ウェブ会議システム（Zoom）を利用して開催します。

## 大会実行委員会担当機関：

気象庁

## 大会委員長：

森 隆志（気象庁大気海洋部）

## 当日の連絡先：

大会実行委員会 [msj-ecomm2022s@metsoc.or.jp](mailto:msj-ecomm2022s@metsoc.or.jp)

## ■オンライン大会の参加にあたって

講演や聴講、質疑を行うには気象学会 [Google Workspace \(G Suite\) アカウント](https://www.metsoc.or.jp/membersite)（会員）または [Google アカウント](https://www.metsoc.or.jp/membersite)（非会員）が必要です。Google Workspace アカウント発行の申請は、[会員サイト](https://www.metsoc.or.jp/membersite)（<https://www.metsoc.or.jp/membersite>）より可能です。

## ■オンライン大会ウェブページ（随時更新中）

大会プログラムの他、講演形態や講演・聴講方法についての説明をご覧ください。

<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/spr2022/home>

## ■ご質問等おありの方は、下記メールアドレスか、問い合わせフォームよりご連絡ください。

メールアドレス [kouenkikaku2022s@googlegroups.com](mailto:kouenkikaku2022s@googlegroups.com)

問い合わせフォーム <https://sites.google.com/metsoc.or.jp/spr2022/contact>

# 大会行事予定（オンライン開催）

（ ）内は講演番号と講演数

		ホストA	ホストB	ホストC
5月17日 (火)	09:00～ 12:00	A1A 降水システム I (PR, 6)	B1A 気候システム I (CL, 8)	C1A 物質循環システム (MC, 8)
	13:00～ 16:00	A1P 気象予報 I (WF, 9)	B1P 観測手法 I (OB, 9)	C1P 環境気象 (EM, 4) 産業気象 (IM, 3) 気象教育 (ME, 2)
	16:15～ 17:45	P1L オンラインポスター I (65)		
5月18日 (水)	09:00～ 12:00	A2A 気象予報 II (WF, 7)	B2A 熱帯大気 I (TR, 6)	C2A 中高緯度大気 (MH, 9)
	13:00 ～ 16:00	A2P 降水システム II (PR, 9)	B2P 気候システム II (CL, 8)	C2P 大気境界層 (BL, 5) 大気放射 (RD, 2)
	16:15～ 17:45	P2L オンラインポスター II (65)		
5月19日 (木)	09:00～ 12:00	シンポジウム「線状降水帯に関する研究の最前線と今後の展望」		
	13:30～ 16:00	授賞式および学会賞、藤原賞、岸保・立平賞受賞記念講演		
	16:30～ 18:00	総会		
5月20日 (金)	09:00～ 12:00	A4A 気象予報 III (WF, 8)	B4A 熱帯大気 II (TR, 6)	C4A 大気力学 (DY, 5) 中層大気 (MA, 2) 惑星大気 (PA, 1)
	13:00～ 16:00	A4P 降水システム III (PR, 9)	B4P 気候システム III (CL, 9)	C4P 観測手法 II (OB, 9)
	16:15～ 17:45	P4L オンラインポスター III (65)		
	16:00～ 18:00	ジュニアセッション I-1	ジュニアセッション I-2	注) オンラインポスター講演とジュニアセッションは、一部講演時間が重複しています
5月21日 (土)	10:30～ 12:30	ジュニアセッション II-1	ジュニアセッション II-2	
	13:30～ 17:00	真鍋淑郎先生ノーベル賞受賞記念特別公開シンポジウム		

発表件数：195 件

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について ([https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ\\_kitei\\_copyrightpolicy.pdf](https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf))」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所内 講演企画委員会 (E-mail: kouenikaku2022s@googlegroups.com) まで



## 講演の方法

大会ウェブサイトにも講演方法の詳細を掲載しています。必ずご覧いただくようお願いいたします。

### オンラインポスター講演

- 大会ウェブサイト上に掲載された発表資料を閲覧し、発表資料にコメントを残すことで質疑応答を行います。
- 講演者は G Suite の Meet や Chat を使って、オンラインの質疑応答の場を設定することも可能です。
- 気象学会会員は、気象学会が発行する G Suite アカウントが必要になります。

### 口頭発表

- Zoom を使用したウェブ会議システムによってオンライン上で口頭発表を行います。
- 講演 1 件あたりの持ち時間は 18 分 (講演 14 分・質疑 4 分) です。

- 聴講者の利便性を考慮して、20 分刻みの開始時刻を設定しています。スムーズな進行ができるよう、持ち時間の厳守にご協力をお願いします。

### 注意事項

- 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
- インターネット接続環境、オンラインポスター講演・口頭発表に必要なパソコン、マイク、スピーカー等の機材は各自で準備して下さい。
- 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

## お知らせ

### (領収証について)

PDF 形式の領収証をメールにて送付します。紙媒体の領収証が必要な場合は、講演企画委員会 (kouenkikaku2022s@googlegroups.com) までご連絡ください。

### (電子版予稿集について)

参加者には、「講演予稿集ダウンロード用パスワード」を事前にお知らせします。

大会には参加せず、予稿集のみ購入を希望する場合は、講演企画委員会 (kouenkikaku2022s@googlegroups.com) までご連絡ください。

### (保育支援について)

今大会はオンライン開催のため、保育施設利用費用の補助は行いません。

## シンポジウム

### 「線状降水帯に関する研究の最前線と今後の展望」 ～メカニズム解明、観測、予測の現状と将来～

日時：2022年5月19日（木）（大会第3日）9:00～12:00

場所：気象庁講堂からオンライン配信

趣旨：近年、線状降水帯に伴う災害が顕著で、社会的関心も高まっています。一方、線状降水帯のメカニズムは未だ十分に解明できておらず、観測の強化や予測精度の改善等が喫緊の課題となっています。本シンポジウムでは、これらの最先端の科学的知見について専門分野の方々にご紹介いただくとともに、防災気象情報の改善にどのように反映させていくか、多角的にご議論いただくことを計画しました。

司会者：佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所教授）

### プログラム：

概要説明：佐藤正樹（東京大学）

線状降水帯のレビューと今後の課題：加藤輝之（気象研究所）

内閣府第 2 期 SIP における線状降水帯の観測・予測技術開発の進捗と実証実験：清水慎吾（防災科学技術研究所）

『富岳』を使ったシミュレーション予測実験：三好建正（理化学研究所）  
日本における停滞性降水系の特徴と近年の豪雨時に見られた大気環境条件：竹見哲也（京都大学）  
線状降水帯の理想化実験：伊藤純至（東北大学）  
梅雨の環境場と線状降水帯：川村隆一（九州大学）  
※総合討論では、上記の講演者に加え、川畑拓矢（気象研究所）、中村尚（東京大学）、安田珠幾（気象庁）もパネラーとして参加。ファシリテーターは佐藤正樹（東京大学）。

---

## 特別シンポジウム

### 「真鍋淑郎先生ノーベル賞受賞記念特別公開シンポジウム」

日時：2022年5月21日（土）（大会第5日）13:30～17:00

場所：気象庁講堂からオンライン配信

趣旨：日本気象学会名誉会員の真鍋淑郎博士（プリンストン大学）が2021年ノーベル物理学賞を受賞されたのはまだ記憶に新しい。受賞理由は「地球温暖化を確実に予測する物理気候モデルの開発」で、地球気候をコンピューター上で再現・予測できる数値モデルを開発し、大気中の二酸化炭素濃度の増加による気候への影響を初めて明らかにした真鍋先生の先駆的な研究が評価されたものである。真鍋先生が開拓された数値気候モデル研究は、「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の評価報告書に代表される地球温暖化研究の進展は勿論のこと、古気候研究も含め、今日の気象学・気候学研究の礎となっているほか、日々の数値天気予報の発展にも影響をもたらしている。そこで本特別公開シンポジウムでは、許可を得て真鍋先生のノーベル物理学賞受賞講演（英語）を日本語字幕付でビデオ上映したあと、真鍋先生の先駆的な研究の意義や今日へのインパクトについて5名の気象学会員が解説する。

司会者：中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター教授）

#### プログラム：

概要説明：中村 尚（東京大学）

真鍋淑郎先生ノーベル物理学賞受賞講演（日本語字幕付ビデオ講演）：真鍋淑郎（プリンストン大学）

真鍋先生が拓いた気候モデリングと温暖化研究—その後の発展—：渡部雅浩（東京大学）

真鍋氏の気候モデル開発を追って：積雲対流と高解像度モデリング：佐藤正樹（東京大学）

古気候モデリングの新展開：阿部彩子（東京大学）

最新の気候モデルが描き出す、地球温暖化と異常気象・日本の将来気候：今田由紀子（東京大学）

真鍋先生のご研究の数値予報に対するインパクト：岩崎俊樹（東北大学）

閉会の挨拶：佐藤 薫（東京大学）

---

## 研究会のお知らせ

大会期間中に研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第11回気象学史研究会

主催：気象学史研究連絡会

日時：2022年5月19日（木）18:00～20:00

形式：オンライン（リアルタイム形式）

テーマ：「古典籍・古文書の自然現象記録を用いた気候復元と気候変動」

趣旨：日本では、歴史文書に記録された天候情報などを用いて気候復元研究が行われてきた。その中でも、桜の開花時期に代表される植物季節や湖の結氷日に関する記録は長期にわたって記録されており、それらを用いた研究成果は、国内外で注目されてきた。本研究会では、古典籍に記された京都の植物季節と古文書に記された諏訪湖の結氷日の情報を利用した

気候復元を行う著名なお二方の先生に、これまでの成果と現在進行中のご研究にもとづく最新の知見を紹介していただく。本会合は気象学史研究に関心を持つ、より多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催する。

コンビーナ・司会：財城真寿美（成蹊大学）

#### プログラム：

1. 古典籍の植物季節記録による京都の気候復元  
青野靖之（大阪公立大学）
2. 579年間の諏訪湖結氷記録からみた長期気候変動  
三上岳彦（東京都立大学）

連絡先：山本 哲（元・気象研究所）

気象学史研究連絡会ウェブサイトの問い合わせフォームでご連絡ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

---

## リクルート対応について

大会開催にあたり、以下の企業・団体からリクルート対応のご連絡をいただきました（50音順）。連絡先等は大会ページ（<https://www.metsoc.jp/meetings/2022s>）にて公開します。

リクルート対応企業・団体：

一般財団法人日本気象協会

オフィス気象キャスター株式会社

---

## 2022 年度秋季大会の予告

2022 年度秋季大会は、2022 年 10 月 24 日（月）～10 月 27 日（木）に北海道大学で開催される予定です。大会告示は「天気」5月号に掲載予定です。なお、秋季大会の講演申込締切は2022年7月頃となる予定です。